

SDGs パートナー活動会員

宮崎畳工業組合では、畳の文化や技能を後世に残すため、会員向けにさまざまな取り組みや勉強会を実施しています。イグサなどの天然素材を使った畳は、部屋の湿度調節や空気の浄化など機能的なメリットが多く、天然の香りでリラックスできる人に優しい素材です。同組合は、小中学校のミニ畳教室や各種イベントで国産の天然イグサを使った畳を普及させ、い草の国産存続に貢献することを目指し、この素材を使った畳の文化を未来に残すことを目的としています。

国産い草の普及により持続可能な業農家の働きがいを生み出し、次世代が活躍できる環境を整え、それが日本文化の継承につながると考えているからです。

また、い草の田圃はCO2を吸収し、その拡大は地球温暖化防止に貢献することができます。

古しい草(畳の表面)は、畑の雑草を防ぐためにも使用できます。

当組合は、地元の畳店にい草農家の情報を共有できる研修会を開催し、製造に関しても技能士資格取得や安心安全な畳製造の品質管理責任者講習会も積極的に行っております。

消費者との交流イベントの参加、宮崎県との災害協力協定の締結などを通じて、住民が安心して暮らせるまちづくりに貢献することを目指しております。

ミニ畳教室に使われる土木、床、縁などは、実際の畳を作る際に発生する小さすぎて製品に使用できない廃材から主に作られています。

小中学校でミニ畳の体験学習を行うことで、子どもたちに「ものを大切にすること」や「責任ある使い方」の大切さを教えています。

同組合は畳を SDGs に沿った取り組みと捉えており、これまで SDGs を旗印にしたイベントは開催していませんが、これまでの活動は SDGs の精神に沿ったものであると考え、今後も継続することを目指しています。

